

平成 27 年度

福祉教育読本「ともに生きる」感想文集

福祉絵画コンクール受賞作品集

# ともだち



社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

## はじめに

福祉にかかわる心は、大人になって急に芽生えるものではありません。幼児期からの生涯学習のなかで育まれるものと考えています。

宗像市社会福祉協議会では、福祉教育を地域福祉計画の一つの柱として掲げ、事業を推進しています。この事業の一つとして、毎年、福祉教育読本「ともに生きる」の感想文と福祉絵画を募集し、「市民活動交流まつり」の日に合わせて、優秀な作品に対して表彰をしています。

「ともに生きる」感想文は、市内小学校五年生全員に応募していただき、福祉絵画には、市内の保育園・幼稚園から高校生まで約200名の応募がありました。これらの作品は、いずれも心温まる思いやりや、福祉の心にあふれる素晴らしいものでした。

この福祉事業の推進に当たりましては、先生方をはじめ、たくさんの方々にお世話になり、まことにありがとうございました。

なお、この事業に用いた福祉教育読本にかかる経費などには、赤い羽根共同募金による配分金が充てられており、共同募金がこのようなところにも使われていることをお知らせしながら、皆さまの日頃からのご協力に厚く感謝申し上げます。

平成二十八年二月

宗像市社会福祉協議会 会長 福本義雄

## 福祉教育読本「ともに生きる」感想文 目次

☆	会長賞	「親切のつもりでも」を読んで	河東西小学校	植津 菜美	6
☆	金賞	野球大会	自由ヶ丘小学校	尾崎 航太	6
☆	金賞	知ろうとすることの大切さ	赤間小学校	花崎 七瑠実	7
☆	銀賞	「ともに生きる」を読んで	赤間西小学校	立野 万彩子	8
☆	銀賞	身近な障害	東郷小学校	岡田 稀代音	9
☆	銀賞	障害者の人の幸せ	河東小学校	岩本 良水	9
☆	銅賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んでの感想	自由ヶ丘小学校	北原 結菜	10
☆	銅賞	「知らなかったですむことじゃない」を読んで	自由ヶ丘南小学校	吉田 乃々香	11
☆	銅賞	みんなが幸せになるために	河東小学校	久良木 愛	12
☆	銅賞	言葉の力	自由ヶ丘小学校	福田 佑樹	12
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	吉武小学校	山下 葉奈	13
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	赤間小学校	瀧口 陽菜	14
☆	最優秀賞	「まさるちゃんのいのち」を読んで	赤間小学校	三輪 そのか	14
☆	最優秀賞	「ともに生きる」を読んで	赤間小学校	佐藤 翼	15

☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	赤間西小学校	許斐 あかり	16
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	河東小学校	松嶋 涼菜	17
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	河東西小学校	山本 心寧	18
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	河東西小学校	久保 芙羽加	19
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	南郷小学校	須藤 梨湖	19
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	東郷小学校	田端 類	20
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	日の里東小学校	藤田 啓祐	21
☆	最優秀賞	「親切のつもりでも」を読んで	日の里東小学校	吉武 颯音	22
☆	最優秀賞	「ともに生きる」を読んで	日の里西小学校	森木 野乃佳	22
☆	最優秀賞	「障害をかわいそうだと思えない」	日の里西小学校	宮澤 壮太	23
☆	最優秀賞	「知らなかったですむことじゃない」を読んで	自由ヶ丘南小学校	大場 彩花	24
☆	最優秀賞	「のおお君おめでとう」を読んで	玄海東小学校	占部 豊樹	24
☆	最優秀賞	「ともに生きる」を読んで	玄海小学校	田中 彩都貴	25
☆	最優秀賞	「野球大会」を学習して	大島小学校	沖西 洸太郎	25
☆	最優秀賞	「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで	地島小学校	加賀田 光海	26

## 福祉絵画コンクール受賞者 目次

### 金賞

☆ 高校生の部	やさしさ	宗像高等学校	古永 誓子	29
☆ 中学生の部	思いやりの町	河東中学校	松本 愛利香	29
☆ 小学高学年の部	みんな知ってる？このマーク	日の里東小学校	井上 和香	29
☆ 小学低学年の部	もう だいじょうぶだよ	吉武小学校	山下 愛未	30
☆ 幼児の部	えがおがだいすき	平等寺保育園	吉田 政文	30

### 銀賞

☆ 高校生の部	おもいやり	宗像高等学校	田村 真之	30
☆ 中学生の部	みんなが笑顔でいられる世の中を	中央中学校	大城 佳乃子	31
☆ 中学生の部	人と人とのつながり	河東中学校	久保 七彩	31
☆ 小学高学年の部	笑顔の広がり	日の里東小学校	梶原 かなで	31
☆ 小学高学年の部	思いやり	日の里東小学校	岡田 未来	32
☆ 小学低学年の部	みんなでてをつなごう	東郷小学校	光安 陽彩	32
☆ 小学低学年の部	ありがとう	河東小学校	田中 ひな	32
☆ 幼児の部	うさぎのえさやり	野ばら保育園	河野 彩叶	33

☆	幼児の部	おかあさんのおてつだい 〜チキン南蛮づくり〜	野ばら保育園	片岡 慎脩	33
<b>銅賞</b>					
☆	高校生の部	帰り道	宗像高等学校	崎山 夏江	33
☆	高校生の部	心	宗像高等学校	古澤 拓也	34
☆	中学生の部	介護	日の里中学校	日高 紘己	34
☆	中学生の部	思いやり	日の里中学校	安部 彩弥	34
☆	中学生の部	家族	日の里中学校	和田 崇祥	35
☆	小学高学年の部	人をたすける心	日の里東小学校	桑野 真優	35
☆	小学高学年の部	心の木	東郷小学校	舟越 心咲	35
☆	小学高学年の部	地きゅうの皆で心をつたえ合おう	日の里東小学校	田中 希実	36
☆	小学低学年の部	思いやり やさしさ	東郷小学校	隅田 杏奈	36
☆	小学低学年の部	ともだち大すき あそび大すき	大島小学校	福崎 心美	36
☆	小学低学年の部	ひとりじゃないよ	東郷小学校	池園 桃花	37
☆	幼児の部	かわいいおかあさん	平等寺保育園	平嶋 紗羅	37
☆	幼児の部	しよつきあらいのおてつだい	野ばら保育園	武田 紗弥	37
☆	幼児の部	おばあちゃんのものをもつてあげたよ	野ばら保育園	毛利 侑宇	38

## 会長賞

「親切のつもりでも」を読んで

河東西小学校 植津 菜美

この話を読んで、私がゆかりちゃんと同じ立場だったら同じようにくやしかったと思います。ゆかりちゃんは、左目が悪くても右目は見えるのでみんなに世話をかけないように必死でがんばっていました。それなのに、ボールを落としただけなのに、目が悪いことを理由に「ゆかりちゃんだけは」とか「ゆかりちゃんだけは特別に許してあげる」と特別あつかいされたのです。みんなと同じようにがんばっている時に特別ルールを作られたらみんなと同じではないような気がしてくやしいと思います。そう思った時に私も思い当たる出来事があったので、「はっ」としました。

私のクラスには、しょう害のある人たちの特別学級にいる一人の女の子がいます。休み時間その子と合わせて遊ぶことができます。その時に、みんなで話合っつてその子に投げる時だけやさしく投げるといふ特別ルールを作りました。私たちはそのことを悪いことだとは思っていませんでした。でも、この話を読んで、特別ルールを作ったことはその子にとっつていやな思いをさせていることかもしれないと分かりました。もしかしたら、ゆかりちゃんと同じように家に帰って泣いているかもしれないと思つました。だから、次にみんなでドッジボールをする時には特別ルールを作つたことをどう思っているか、その子に聞いてみたいと思います。

私たちはしょう害のある人たちに出会つた時、親切のつもりで必要以上にやさしく接してしまふこと

があるけれど、しょう害のある人たちにとっつて、それはやさしさではないのかもしれないと思つました。本当の親切とは、しょう害があるなしに関わらずふつうに接することだと思つます。

## 金賞

野球大会

自由ヶ丘小学校 尾崎 航太

ぼくは、「野球大会」を読んで、障害者にもくらしやすい世の中にするために、努力しないとイケないなと思つました。

まずは、設ぶです。主人公のひろしが、野球場にいます式のトイレがないと分かつて大会の応えんをあきらめたように、だれもが快てきにすごすための設ぶがないことで、困つ

てしまう人がいます。最近では、そういった設びもふえて、どんどん改善されていますが、やはり、まだ障害者にとってはくらすのは大変だと思います。もつと、設びをじゅう実させる努力が必要だと思えます。

でも、やはり大切なのは人がどう接するかです。ひろしの同級生たちのように、やさしい目で一生けん命に介護をしたりする人もいますが、その一方で、障害者に偏見を持ち、冷たい目で見てしまう人もいます。でも、人はみんな平等なので、みんなを同じ目で見ると思いません。

実は、ぼくも障害者をほかの人とちがう目で見ていました。しかし、この「野球大会」を読んで、

（なんで、こんなにひろしのような人は努力していて、毎日大変なのに、やさしい目で見ていなかったんだらう。）

と反省しました。そして、自分の考

えを改めました。

ぼくは、今まで実際には、障害者を助けたことはありません。自分から進んで助けることができる人は、勇気があって、すごいと思います。ぼくも、そんな人になりたいです。

障害のあるなしに関わらず、同じ仕事をしたり、同じ生活をしたりするなど、平等な世の中になればいいなと思います。そのためには、ぼくたち子どもが立ちあがり、ともに生きるこの大切さを、世の中に知らせることが大切だと思います。

金賞

知ろうとすることの大切さ

赤間小学校 花崎 七瑠実

「差別はいけない。」

私のクラスのさっちゃんを読んで、強く感じました。

この話は体が不自由なさっちゃんを、まだ体の不自由な人のことを知らない一年生が、バカにします。それを見たクラスの友達が、さっちゃんのために、どうしたら良いのか一生けん命考え話し合います。自分のことじゃないのに、自分のことのように真剣にさっちゃんのことを考えているクラスの友達を見て、思わず心を打たれました。

クラスの友達を知っていたから差別を許さなかったし、一年生は、知らなかったからきずつけることになったんだと思うから、知ることとはとても大切だと思います。

さっちゃんは、からかわれることを「慣れているから。」といってあきらめていたので、応えんしてくれているクラスの人達とあきらめないでほしいと思います。

さっちゃんはきつと、クラスの人



達に背中を押されて自信がついた  
と思います。だから私も誰かが傷つ  
く前にこのクラスの人達のように  
止めたり行動をおこしたりしたい  
です。

### 銀賞

「ともに生きる」を読んで

赤間西小学校 立野 万彩子

「ともに生きる」の本の中で「親  
切のつもりでも」という話が一番身  
近だと思いました。そして、実際に  
あるかもしれない話だから、興味を  
持ちました。

私は三回読み返しました。一回目  
は、初めて読んだ時。二回目は、登  
場人物のとし子さんの気持ちで読  
み、三回目は、登場人物の目にしよ  
うがいのある、ゆかりさんの気持ち

で読みました。二回目のとし子さん  
の気持ちで読んだ時、わたしも、に  
たように、ゆかりさんを特別あつか  
いをしてしまうのかもしれないと思  
いました。それは、ゆかりさんの  
気持ちに分からないまま親切のつ  
もりです。でも、とし子さんみたい  
に、ずっと

「いいよ、ゆかりさんだけ。」

と言う言葉は、言えないと思います。  
私だったらすぐく頭きて、

「もう、チームからぬけて。」

と言ってしまふかもしれません。私  
は、とし子さんが、がまんしている  
のだと思います。なのに、その親切  
をとし子さんは、続けていることは  
すごいと思います。でも、ゆかりさ  
んには、その親切がとどかず、ゆか  
りさんは家で泣いてしまったので、  
それはかわいそうだなと思いまし  
た。だから、さりげなく、自然な親  
切をしたらよかったのかもしれない  
せん。例えば、ボールを拾ってあげ

るとか、「行くよ。」とか「はい。」  
というかけ声をしたりすればよか  
ったのではないかと思います。

三回目に読んだ、ゆかりさんの気  
持ちで読んだ時、私もゆかりさんと  
同じように、「ゆかりさんだけ」の  
「だけ」という言葉が気になり、自  
分だけ、特別あつかいしていると感  
じて、家で泣いてしまうでしょう。  
そこで、ゆかりさんは、とし子さん  
に

「特別あつかいしないで。できる  
だけがんばるから」

と言っていたらゆかりさんは、そ  
んなに家で泣かなくてすんだので  
はないかと思えます。

私は、もつと二人が自分の気持ち  
を言い、おたがいの気持ちがあつ  
ていたらこのような、行きちがいは  
おきなかったのかもしれないとい  
うことを考えました。

私は、この話を読んで、自分も  
し、しようがいを持ったら、友達に

こういうふうにしてほしいという  
思いを伝え、友達がもし、しょうが  
いを持ったたら、どういうふうにし  
ばいいか、その友達に聞き、この話  
のような行きがちがいないように  
していきたいなと思います。

### 銀賞

#### 身近な障害

東郷小学校 岡田 稀代音

私の弟は障害者です。「自閉症」  
といます。自閉症といっても、い  
ろいろあります。例えば、自分のか  
らに閉じこもっていたり、本当の自  
分を出しきれていなかったりと、い  
ろんな種類があります。その中でも  
弟は、コミュニケーションが苦手だ  
ったり、自分の言いたいことを言  
だしにくいという障害を持ってい

ます。「子ども会」などのプログラ  
ムが急に変わってしまうと、「この順  
番じゃなかった！」と大声でさけん  
でしまったりします。なのでとなり  
にすわって、「ちよつと、プログラ  
ムが変わったから、少し待ってね。」  
と、ゆつくり説明をしなければなり  
ません。弟は、耳で聞いて判断しに  
くく、目で、文字を読んだりして判  
断します。お母さんから、「これは、  
やったらダメ！」と言われると、こ  
れは絶対にやったらだめなんだと  
思って、自分より下の子にも、「こ  
れはやったらだめなの！」と、つよ  
く怒ってしまいます。その言葉のま  
ましか受け取れないので、冗談も通  
りにくかったりします。

いろんな悪いところがあります  
が、弟にも、たくさんのいいところ  
があります。字がきれいで、まだ習  
っていない漢字もたくさんかけま  
す。ていねいで、細かいところまで、  
目がとどき、まちがっているところ

があつたら、教えてくれます。

人には、長所と短所があります。  
障害を持つている人は、短所が少し  
目立ってしまうだけで、ほかの人と、  
何も変わらないのです。「自閉症」  
は、外見から見ると、ほかの人と同  
じなので、きゆうに、大声を出した  
りしたら、他の人から悪いように思  
われたりするのが、悲しいです。他  
の障害者の方々も世間から、理解さ  
れていくことを願っています。

### 銀賞

#### 障害者の人の幸せ

河東小学校 岩本 良水

わたしは、「ともに生きる」の「不  
便だけど、不幸だとは思わない」を  
読んで、主人公のことをすごいと思  
いました。なぜなら、この話の最後

に「聞こえないということ」は確かに不便です。でも、すばらしい友だちに支えられて生きていることを思うとき、わたしはむしろ幸せさを感じるのです」という文があったからです。その文がとても印象的で、障害者で耳が聞こえないのは大変で少し不幸だと思うのに主人公は幸せと言っていて、前をむいて勇気をもっていっしょうけんめい生きているんだなあと思いました。

ある日、わたしはお母さんといっしょに北九州市に行っていました。そこでわたしは外にあった階段をおりている時に一段ふみ外してこけてしまいました。その時はいたくで立つこともできませんでした。左足をひねってしまったので左足を引きずりながら、お母さんに手伝ってもらいながらなんとか車までいきました。とちゆうにあつた事む室の人たちがシッブとテーピングをくれて、とても親切な人達だなあ

思いました。お母さんは、わたしの足の手当てをしてくれました。思うように歩けないのは不便でした。でも、まわりに優しい人がたくさんいたのでもううれしかったです。

これからわたしは、耳が聞こえない人達などの障害者の方たちのために、子どもでも参加できるようにボランティア活動や、イベントに進んで参加していきたいです。そうすれば障害者の人たちのこまわっていること、こういう施設を作ってほしいなどが分かり、それを大人になった時に市役所などにい案できると思います。そしたら、障害者の人達に喜んでもらえると思います。自分にできることをして、少しでも障害者の人達の役に立っていききたいです。



## 銅賞

「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んでの感想

自由ヶ丘小学校 北原 結菜

私は、「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んで、この話の主人公の人は、とてもすごいと思いました。なぜなら、

「耳が聞こえないことに対して、不便だと思うのではなく、すばらしい友だちに支えられて生きていることを思うときわたしはむしろ幸せを感じる。」

と、とても前向きに感じているからです。

もし、私が耳が聞こえなかったら、とても不安だし、こわくてぜったいに前向きにはなれないと思います。でも、この子は仲間はずれにされたり、聞きながらメモがとれなかった

りと、色々なつらい思いをしていても、前向きでいられることは、とてもすごいと思います。

また、この話を読んで、耳が聞こえないつらさが改ためて分かりました。私は耳が聞こえるから友達と会話するのは、当たり前だと思っていたけど、私は耳が聞こえて生まれてきたことに感謝しないといけないなと思いました。

もし今後、耳が聞こえない人や、目が見えない人に出会ったら、仲間はずれにしたり、さべつをせず、みんなと同じように関わっていきたいです。でも、コミュニケーションをとるためにはどうしたらいいかしようじき分かりません。だから大きくなったら、手話や、点字などを勉強して、耳が聞こえない人や目が見えない人と、コミュニケーションをとれるようにしたいです。そのために私もこれから、つらいことや、悲しい事があっても最後まであき

らめず、どんなことにも前向きで、強い人になりたいです。そのために、思いやりの心を持ち続け、たくさんの方にチャレンジしていきます。

### 銅賞

「知らなかったですむことじゃない」を読んで

自由ヶ丘南小学校 吉田 乃々香

私は、この話を読んで、思ったことがあります。「なぜ、いじめをするのだろう。」ということです。みんな同じ人間だし、いじめをする理由はないと思います。もし私が、けいすけくんの立場だったら、絶対止めると思います。なぜ、あんなに仲良しだったのに急にいじめたりするのか全く分かりません。ごろうくん、けいすけくんをいじめるけ

んりはないと思います。私は、ニュースで、いじめや自殺の話を知ると、悲しくなります。私はいじめを絶対に許しません。最初は少しのからかいが、エスカレートして、最後には、大きないじめにつながります。そして自殺に追いこむこともあるのです。私は世界中からいじめをなくしたいです。そのために、少しのからかいでも注意したいです。いじめをなくすためには、それが、必要だと思います。あと、自分に出来ることを、ひとり、ひとりが考える事も必要だと思います。私も出来ることがあれば、考え、実行したいです。未来はいじめや差別がひとつもない笑顔あふれる世の中になりたいです。



銅賞

みんなが幸せになるために

河東小学校 久良木 愛

私は、「不便だけど、不幸だとは思わない」を読んで、とくに心に残った文があります。

「耳が聞こえないから『不幸な人』とか『かわいそうな人』という見方をする人がいますが、わたし自身はそうは思いません。」

という文です。私は、この話を読む前は、「耳が聞こえない人は、不便なことが多くてかわいそうだな。」と思っていました。しかし、この文章には、「聞こえないことは不便だけど、友だちに支えられていることを思うと幸せを感じる。」ということが記されていました。

私がおもし、耳が聞こえなくなったら、とても不安だと思います。でも、

きつとそばで支えてくれる人がたくさんいて、幸せになれると思います。だから、私は、不安になった時に、この話を思い出し、生き生きとした人になれたらいいなと思います。

私はこの話を読んで、こう考えるようになりました。「しようがいがある人も、幸せを見つけて楽しみながら、生きています。」だから、私ももししようがいがある人が身近にいたら、みんなと同じように接するようになりたいと思います。一人一人がそうやって接していけば、しようがいのある人もない人も、みんながもっと楽しく生活できると思います。

私は、「不便だけれど、不幸だとは思わない」を読んだことをきっかけに、しようがいがある人に対して、少し配りよをしながら、みんなと同じように、話しかけたりするようにしたいと思いました。

銅賞

言葉の力

自由ヶ丘小学校 福田 佑樹

ふだん生活している中で使っている言葉、会話やふだんの行動が相手にいやな思いや、悲しい気持ちにさせているかもしれない。

この実話は主人公のゆかりが五年生になって左目の視力が落ち、三角パスをしていた時のゆかりや友達などの気持ちのお話です。

ゆかりが友達の一人、とし子からパスされたボールを落としてしまった際に

「目が悪いからいいよ。」と言われたことをとてもくやしきことだったんだとゆかりの気持ちで読むことができました。

ぼくは学校に行くことが大好きです。友達と遊ぶことも楽しいです。

それでもけんかをしたり、自分の意見が伝わらなかつたり、反対されたりすると知らず知らずのうちに、強い言葉を言ったりしてしまうことがあります。みんなにもこのようなことはないでしょうか。

ぼくはブランコが好きで学校の休み時間はいつも友達三人とブランコで遊んでいます。ある日の休み時間、ぼくはいつものように友達とブランコで遊んでいると笑いながら一人の友達が「絶交」と言ってきました。とつぜんのことにぼくはおどろきました。友達の表情から見るとじょうだんだと分かりました。しかし、その時はあまりにもとつぜん言われたのでぼくもはらが立ってその後、友達がしゃべりかけてきた時、

「絶交するんやろ、じゃあ話しかけてこんで！」

とそんな気持ちもないくせに売り言葉に買い言葉でついつい強くい

ってしまいました。今ではぼくもその時のことを反省して友達とは仲良くやっています。じょうだんで言った一言が相手にとつてはひどくいやな気持ちや悲しい気持ちになることが分かりました。

このことを通して言葉の力はすごいものだと思います。

#### 最優秀賞

「親切のつもりでも」を読んで

吉武小学校 山下 葉奈

わたしは、「親切のつもりで」を読んで、主人公のゆかりさんがかわいそうだな、と思いました。

なぜなら、ミニ・バスケットボールの練習のとき、とし子さんが、「ゆかりちゃんだけはいいいよ。目が悪いから許してあげる。」と言っていた

からです。もちろん、とし子さんは、ゆかりさんがかわいそうだと思つて、親切のつもりで言っているのは、わたしにも分かります。

それは、わたしも、友だちに同じようなことを言ってしまったことがあるからです。しかし、わたしが親切のつもりで言った言葉は、相手をきずつけてしまったのです。そのとき、わたしの友だちは、ゆかりさんと同じ返事をしてくれました。ですが、そのときから、少し、え顔がその子から消えていたような気がしました。言ったときは感じなかった相手の悲しみが、今になって少し分かるような気がします。

その子がいくらがをしながら、して、しよう害を持っていったって、その子は悪くありません。それなのに、こんなことで差別したって、親切のつもりで言ったって、相手を、ただきずつけてしまうだけだと思います。

ですから、「こんなことで差別してはいけない」という心を、一人一人が持つことが、とても大切だとわたしは思います。

この話を読んで、あらためてそう思いました。

### 最優秀賞

「親切のつもりでも」をよんで

赤間小学校 瀧 陽菜

私は、「ともに生きる」の「親切のつもりでも」を読んで、しょう害がある人に、親切にしたつもりでも、相手の心をきずつけてしまうことがあるかもしれないということを学びました。

そして、他の人にはきびしくして、しょうがいのある人だけに、やさしくするというのは差別の一種だと

思います。

また、そんなことをすると、周りの人も、「なんであの人だけ」ときずつくし、やさしくされた人も、「わたしだけでなく他の人にもやさしくして」ときずついてしまい、結局やさしくした意味がなくなると思います。そして、最後には、自分が、がっかりしてしまうので、しょう害者の人にも他の人と同じように、対等に接するべきだと思います。

私が足をねんざしている時、そうじ時間になって、つくえを運ぶのがむずかしくて困っている時に、友達が出来て、「ひなたちゃんだけ手伝ってあげる」と言われて、「私だけ手伝ってあげる」と言われて、「私だけ手伝ってあげる」と言われて、「私だけ手伝ってあげてもらって楽しいのかな」と思いました。そして次の日、その友達に、「私だけじゃなくて他の子も手伝ってあげて」と言うのと、「うん、いいよ」と言ってくれたので、少しほっとしました。

私もこれから、差別をしたりしないよう、気を付けたいと思いました。

### 最優秀賞

「まさるちゃんのいのち」を読んで

赤間小学校 三輪 そのか

私は『まさるちゃんのいのち』を読んで、「へえそんな病気もあったんだ。知らなかった。」「うわあこのまさるちゃんが自分だったら。」という感想を持ちました。

どうしてそう思ったのかというと、私とその水頭症という病気を知らなかったのと、まさるちゃんが、最初から水頭症だと分かっていたので、手術によってお産が行われていたからです。

水頭症という病気は、ずがいこつ

の内部にたくさんの水分がたまっ  
てしまい、そのために頭が大きくな  
っていつてしまうという病気です。  
そんな病気にまさるちゃんがかか  
ってしまったのです。そのままに  
しておけば、水分が脳を圧迫して、半  
数は一年半未満で死亡すると言わ  
れているそうです。それに、生まれ  
た後にお母さんは自分の子どもを  
だっこすることもできなかつたの  
です。

そこまでの文章を読んで、私は  
「何でそんな病気が赤ちゃんにか  
かってしまうのだろう。」という気  
持ちがいっぱい心のなかにありま  
した。

まさるちゃんが今の私だったら、  
私はショックでお母さんに「何でこ  
うなったと。」とおこって聞いてし  
まい、ずっと学校でも不安でたまら  
なくなると思いました。

だから、これから私は生きていく  
上で病気にかかったら、この話を思

い出して、がんばりぬきたいと心か  
ら思います。

### 最優秀賞

「ともに生きる」を読んで

赤間小学校 佐藤翼

ぼくは、「ともに生きる」の本を  
読み、命の大切さを改めて知ったり、  
障害者のことをよく考えたりでき  
ました。事故にあつて、足が動かな  
くなり、おちこんでしまつていたの  
に、ほかの障害者たちと出会い、は  
げまし合つたりして元気をとりも  
どしていったりしていたけれど、ぼ  
くがもし、とつぜん事故にあい、足  
が動かなくなつてしまつたら、生き  
る気を失つてしまうと思います。し  
かし、ひろしさんは、周りからたく  
さんはげまされていたのにまだ少

しさびしくなるようなこともある  
から、もしぼくが友だちだったら、  
はげまし、野球大会の応援にいっし  
よに行きたいです。

そしてぼくが「ともに生きる」の  
中で一番心に残つたことは、家族や  
友達がおちこんでいたり困つたり  
しているときに、その周りの人たち  
がはげましたり、元気づけたりして  
いるところが一番心に残りました。  
ぼくが、もしおちこんだり困つたり  
しているときに周りのはげましや  
元気づけさせたりする言葉などが  
なかつたりしたら、ずっとおちこん  
だり困つたままだと思ひます。だか  
ら周りの人たちのはげましや、元気  
づけさせたりさせる声などは、とて  
も大事だと思うので、もし友達や家  
族がおちこんだり、困つていたり  
したら、はげましの声などを、この  
「ともに生きる」に出てきた人と同  
じようにやさしく、あたたかい言葉  
でかけたいです。



いつ、自分が事故にあったり、友達が事故にあったりするのか、分からないので、もし友達が事故にあってしまったらおちこんでしまったりしたら、あたたかいはげましの声、そしてもし自分が事故にあったりおちこんでしまったりしたら、まず家の人と相談をしたりして、少しずつ元気をとりもどしたりしたいです。ぼくは、一人で生きているのではなくみんなとともにいきっている、これから助け合いながら生活したいです。

最優秀賞

不便でも、不幸ではない

赤間西小学校 許斐 あかり

私は、『共に生きる』という本を読みました。その中で一番気になっ

たのは、『不便でも、不幸とは思わない』というお話です。主人公の女の子は耳が聞こえません。そしてどんな薬や手術でも治らないと書いてありました。私はその文章を見てとてもかわいそうに思えました。小さい頃はあまりそんなことを考えず、自分と相手との差を感じないと思います。けれど中学校、高校に入ると、だんだんそんな自分と相手と比べてしまうのではないのだろうかと思いました。主人公の場合は、『感音難聴』という病気でした。補聴器をつけても、言葉の区別がつかず、人の話は分かりません。声は出せても、自分がどういう声を出しているのかわからないので発音がはつきりしないのです。しかも緊張したりこうふんすると、思わず声がかん高くなってしまう、相手に伝わりにくい言葉になってしまいます。耳が聞こえない主人公は、みんなの口話についていけなくなってい

ました。口話でみんなと会話ができないなら読話しかないと思った主人公は、相手のくちびるの動きや顔の表情から話の内容を読みとつていかなければなりません。それに速くしゃべる人やぼそぼそとしゃべる人がいたり、口のあけ方はほとんど同じなのに、意味が全くちがう言葉があつたりして、区別がつかないことがしばしばあるそうです。しかしその主人公がみんなの口話についていく方法は読話しかなかったのです。たとえば授業のときです。主人公は、先生の話聞きながらノートをとることができないので、先生の口をじっと見えています。すばやく読話していかなければいけないので考えるゆとりなどないのです。ある日、主人公は、先生から、

「きみはなぜ人の顔ばかりを見て教科書をみないんだ。」

と注意されました。主人公は、「耳が聞こえないから同時に別

のことができないのです。」

「とおうとしました、そのときは思わず、なみだが出かかって声にならなかつたそうです。主人公は集会を休んだり、始業式や終業式は形だけの参加だったりしたので集会で、感想文を書く時は、集会が始まる前に書いてしまったこともあったそうです。それでも、主人公はみんなに、」

「話されていることがその場でわかるような卒業式、みんなと一緒にいるのだと思えるような卒業式にしたい。」

とうったえました。私は、耳が聞こえないということ以外は、主人公もみんなと同じであると思います。主人公の周りにはいつも、必ずといっていいほどだれかがいて、はげましてくれていたそうです。そのおかげでつまづきながらもくじけることなくやってこれたそうです。障害をもっている人に対して、「かわい

そうな人」とか「不幸な人」と思う人はたくさんいると思います。確かに、耳の聞こえないこと、目の見えないことは不便だと思えます。けれど、周りの人たちがやさしく支えていけば不便でも、不幸にはならないのではないのかと私は思いました。

### 最優秀賞

たくさんの人の協力、ふれあい

河東小学校 松嶋 涼菜

私は、「ともに生きる」の「のぶお君おめでとう」という話に心を強く打たれました。

ある日、のぶお君のお母さんから手紙がとどきました。のぶお君は入学したばかりの一年生です。のぶお君は自閉的傾向を持つ子どもで周りのかんきょうやしげきに強く動

かされやすいということでした。さんなやんでいたそうです。学校にされたほうがよかろうと、親も考えました。毎週土曜日は幼稚園を休み一年四組に席を作ってもらって、ふんい気になれるようにさせてもらったそうです。また先生が週に二回、学校が終わった後に家に来て、のぶお君と遊んでくださったそうです。初めての登校日はちよつと不安そうに何度もふり返りながら登校をしました。でも次の日からは、あいさつもそこそこに元気に飛び出して、手をつないでもらい、みんなとならんで登校をしています。放課後も近所のお兄さん、お姉さんが遊びに来てくれるそうです。このお母さんの手紙は、全校でしようかいされました。この学校の先生達は、のぶお君が入学する前に「保護者のみなさんへ」という手紙を出しました。その手紙で一番強く心をうたれた文章があります。



「いつしよに社会の中で生活する仲間として考えることのできる子どもには育っていかないのでしょうか。」

という文です。

私は、このような体験はしたことがありません。けれどこの話を読み、「こんなお友達がいるんだ。」と思いました。そして、お母さん、先生、近所のお兄さん、お姉さんのたくさんの方の数えきれない人々が協力して、ふれあつて、関係をきずいて子ども権利の一つである「安心して生きる権利」というものが守られているのではないかなと思いました。

### 最優秀賞

今の私とくらべてみて

河東西小学校 山本 心寧

私はともに生きるといふ本の中から一つ、「かずお君の本、きれいやね」という話を読みました。主人公は目の見えない、二年生の男の子です。私は最初、すごいなあーと思いました。私があたり前のように毎日書いている字が見えないし、書いても分からないなんて、信じられません。今の私が点字を覚えるのは、すごく大変なのに、かずお君は小さい時から点字を覚えていきます。五音の他に、アルファベットや記号数字なども覚えているから、とてもすごい事だと思います。

私が読んで、ぎもんに思った事は、絵の事です。ふつうの本についている絵には点字などありません。でも

よく読んでみたら、友達がたすけてあげてる事が分かりました。絵は、かずお君の手をとって指でなぞらせながら説明しているそうです。私は、周りの友達も、やさしい人たちだなと思いました。

私が一番すごいと思った事は、本には書かれていないけど、ふだん歩いている、道です。歩道にある「点字ブロック」です。目の見えない方は、つえなどを使って点字ブロックの上を歩いています。

私がこの事について気になったので、調べてみました。そしたら目の見えない方は、においや、ここから何歩というふうにもう覚えていくそうです。私はこの本を読む前で、目も見えて、耳も聞こえるような人がすごいと思っていました。でも本当は逆です。目が見えなくても、耳も聞こえなくても、のりこえられる人の方がもっともつとすごいことだと、思いました。

最優秀賞

わたしのクラスのさつちゃん

河東西小学校 久保 芙羽加

わたしは、この本を読んで、体の不自由な人がいても、わらったり、からかったりしてはいけないことを学びました。だからわたしは、体の不自由な人がいたら、やさしくせつしたいと思います。

わたしがすごいなと思ったところは、一年生がさつちゃんのことを笑っているとき、注意できなかったからどうすればいいかなど話し合っつて、このままでいいか、など友だち思いなところでした。わたしも友だちが笑われていたら、しょんぼりします。なぜなら、わたしがそのお友達だっただけならとてもいやな気持ちになるからです。笑ったり、からかったり、いやなことを言っつてはいけない

ということ、一年生に話していましたが、わたしだったら一年生だけではなく、もっといろんな人につたえたらいいと思いました。いろんな人に知っつてもらえば、いやなことを言っつたり、言われたりすることが少なくなると思っつたからです。

次に、わたしがわるいなと思っつたのは、明君が言っつたこと葉です。わけは、このままにしておいてもいいというような、いい方だっつたからです。わたしだっつたらこのままにしておけません。大切な友だちが、悲しんでいるのにほっつておけないからです。だから、悲しんでいる人を見かけたら、たすけてあげたいです。わたしは、こまっつている人を見かけたら、すぐにたすけなければいけないと思っつました。それに笑っつたり、からかったり、人のいやがることは、してはいけないことを、知っつりました。だから今後は、人をきずつつけたりしている人を見かけたら、注

意しようと思っつます。だからわたしも、人をきずつつけたり、笑っつたり、からかったり、人にいやなことはしないようにしようと思っつます。

最優秀賞

「不便だけれど、不幸だとは思われない」を讀んで

南郷小学校 須藤 梨湖

わたしは、「不便だけれど、不幸だとは思われない」という話を読みました。このお話は、「耳が聞こえない女の子が、みんなのお話を聞きとれなくてつらいこともあっつたけど、友達がやさしく支えてくれる」お話です。

わたしが心に残っつたところは、二つあります。

一つ目は、女の子は言葉が耳では

分からないから、学校でずいぶんつ  
らかったけど、勇気をふりしぼって、  
「自分のつらい思いをみんなに聞  
いてもらおう」と決心した場面です。  
それは、「話をされていることがそ  
の場で分かるような卒業式、みんな  
といっしょにいるのだと思えるよ  
うな卒業式に参加したい。」という  
ことを自分でうったえたのです。も  
しわたしだったら、つらくて学校に  
行かなかつたり、始業式や終業式は  
耳が聞こえないので形だけの参加  
だから、休んだりしたかもしれない  
ん。この女の子はとても勇気をもっ  
ているんだなあと思いました。



わたしは幸せに感じるので。」と  
言っています。わたしは、この文を  
読んだ時、友達はとても大切だなあ  
と思いました。わたしは友達が支え  
てくれるからこそ、楽しく学校で生  
活できているんだなあ実感しま  
した。そして、しょう害があっても、  
みんな同じ仲間だと思いました。  
わたしのおじいちゃんは、ボラン  
ティアでの手話の会の会長です。お  
じいちゃんは耳の不自由な人も  
話ができます。いろいろな手話を教  
えてもらって、わたしも耳の不自由  
な人も話したり、遊んだりしたいと  
思いました。

#### 最優秀賞

不便だけれど、不幸だとは思わ  
ない

東郷小学校 田端類

ぼくが一番心にのこった言葉は  
「すばらしい友だちに支えられて  
生きていることを思うとき、わたし  
はむしろ幸せさえ感じるのです。」  
という言葉です。とても感動しまし  
た。

もしもぼくが耳が聞こえなかつ  
たら、とてもショックで、友達とは、  
とてもしゃべりたくないと思うけ  
ど、この人は、まわりとは、ちがっ  
ても、がんばって友だちとしゃべろ  
うとしたりしているから、とてもす  
ごいと思いました。そして、前まで  
は、始業式などには、形だけの参加  
だったけど、卒業式にみんなといっ  
しょに出たいという気持ちから、卒

業式では、手話通訳をつけてくれるようにと先生たちに、たのみに行つたから、卒業式に出れたんだと思います。これは、自分一人の力では、できなくて、まわりの友達や、先生などがいたから、できたことなんだなどと改めて、感じました。「そして、わたしのそばには、必ずと言っていいほど、だれかがいてわたしをほげましてくれたり忠告してくれたりしました。そのおかげで、つまずきながらもくじけることなくやってくる事ができました。」が、とてもいいと思いました。

ぼくは、「ともに生きる」とは、いろいろなしようがいをもった人でも、みんなと同じようにせつして、仲良く遊ぶということだと思いません。そしてやさしい言葉などをかけることだと思えます。これから、ぼくはこまっっている人がいたら声をかけたいと思います。

### 最優秀賞

大切なことを教わるために

日の里東小学校 藤田 啓祐

ぼくは、「ともに生きる」という本の中の、「おじいちゃんに習った竹トンボ」という話を読みました。ぼくと同じ五年生の人の出来事で、教えてもらっている時の様子がよく書かれていて、ぼくがおじいちゃんといっしょにどんぐりのこまを作っている時と同じだなと感じました。どんぐりのこまを作った後に、どっちが長く回せるか競争してみたり、回り方がへんだったら、おじいちゃんに聞いて作りかえたりして、すごく楽しかったのを覚えています。この五年生も、同じような気持ちだったんだらうなと思います。また、竹トンボやお手玉を教えてもらいに行くというようなことと

同じように、ぼくが幼稚園に通っている時に、近所のおじいさんやおばあさんたちが、紙ひこうきや竹馬などを教えに来てくれたことがありました。なかなかうまくできませんでしたが、一生けんめい教えてくれました。とても楽しく、そういう時間がすごく大事だと思いました。

ぼくは、おじいちゃんといっしょに住んでいるので、昔のことを聞いたりすることができ、今と比べて違った時間の過ごし方をしていたことなどを聞いたりして楽しいので、竹トンボを習いに行くのを、楽しみにしているこの人の気持ちが分かりました。

ぼくは、毎日おじいちゃんがいるくて良かったと思います。

「もし近くにいなかったら、会いに行つて、いっしょにいる時間をつくってください。今のぼくたちに必要なことをたくさん教えてくれると思います。」

ぼくはこれから、一番大切な時間をたくさんつくっていききたいと思います。

**最優秀賞**

「親切のつもりでも」を読んで

日の里東小学校 吉武 颯音

私は、このお話を読んで親切のつもりでも、相手の心をきずつけてしまうことがあるということを知りました。とし子さんは、親切のつもりだったけれど、ゆかりさんの心にはきずがついてしまったのでとし子さんは、もう少し相手の気持ちを考えてあげたらよかったですと思います。私も、もしゆかりさんのように目が悪くなってしまったら、ボールを落としてしまうことがあると思います。そのとき、他の人にはおこ

る友達から「あなただけはいいよ。」と言われたら、自分だけ特別扱いされていやになります。だからゆかりさんの気持ちもわかります。でも、とし子さんだって親切で言ったのかもかもしれないので、やっぱり、こう言ったら、相手はどんな気持ちになるのか考えてあげたらいいと思います。

私は、この話を読んでこんなふうにも思いました。障害のある人たちは目が悪くなるうと思つてなつたわけじゃなく、生まれつきや、と中からなつたりさまざまだと思います。それなのに差別されたりして、つらい思いをしたり悲しい思いをして私はその人たちがとてもかわいそうだと思います。障害を持った人は、みんなと同じような生活がしたいと思います。そして、特別あつかいをせずにみんなと同じようにあつかってほしいと思います。なのに、差別をしたりする人がいるから、

つらい思いをしなければならなくなるんだと思います。このお話を読んで差別はだめだということもわかりました。

私たちが大人になるまでに、障害のある人とも出会って行くと思います。そのときは、差別せず、相手の気持ちになって話したいです。障害のある人以外にも、言葉できずつけることがないようにしたいです。相手の気持ちを考えるのは、とても大切なことだと思います。

**最優秀賞**

「ともに生きる」を読んで

日の里西小学校 森木 野乃佳

私は、ともに生きるを読んで、特に心に残ったお話が2つあります。それは、「まさるちゃんのいち」

と『声』になやまされた日々」というお話です。どちらも、病気をかかえて、どうしたらいいのかわからなくなったり、かなしくなったりしたお話だったけどそれをのりこえて少しずつ希望をとりもどすお話でした。

私は、その、希望をとりもどすところが、とても好きです。どちらのお話も、失望した時があったかもしれません。だけど、周りの人が、支えてくれたり、自分も明るい未来があることを信じていたから、少しでも回復したんじゃないかなと思います。

だから、私は、「何事にも、あきらめず希望をもって、生活することが大切なんだな。」と思いました。これからいろいろなことにはちやうせんして、どうしたらいいのかわからなくなったりすることが、あるかもしれないけれど、その時は、この2つのお話を思いだして、何事にも、

あきらめずに、チャレンジできるよ  
うになりたいなと思いました。

### 最優秀賞

障害をかわいそうだと思えない

日の里西小学校 宮澤 壮太

体に障害がある人をおかわいそうだななんて思っはいけない。どこかが不自由でも、その人たちはきつとぼくたち以上にいきいきしているだろう。でもそんなことを思わない人も少なくない。野球大会という文章を読むと、そのことがわかんと思っう。ぼくは、この文を読んでこう思った。

この野球大会という文は、足が不自由な主人公のひろしは、車いすに乗っているため、どうしても野球大

会に行く元気がない。そんなひろしが足が不自由になるまでをえがいた文である。

ひろしは横断歩道をわたるときに飛び出してきた車にはっとして、そのまま交通事故にあった。ぼくだったらひとたまりもない。さらに、会場への道には段差が多かったり、車がたくさん行き来しているので、めいわくだなと思っう。でも、ひろしはいきいきとしてるところがあった。

「今でもひろしは野球が大すきです。」という一文から分かる。理由は、事故にあったのは野球をしようとした時なのに、野球をあきらめきれないという思っがあったと思ったから。

このように、障害をもつ人はだいたいがいきいきとしてるかもしれないところがある人も少なくない。この文章を読めば、障害がある人への考えがかわると思っう。



最優秀賞

「知らなかったですむことじやない」を読んで

自由ヶ丘南小学校 大場 彩花

私は、「知らなかったですまされることじやない」は苦しみは、一つじやなかったと思います。けいすけは、いじめられていやな思いをして、「ぼく」は、そのいじめを知っていて、自分が仲よしだった、けいすけを助けない事に苦しんでいたんじゃないかと思いました。

私は、けいすけが苦しんでいると、「ぼく」が代わりに、先生に伝えれば、何か、変わったと思います。

私は、この話をみんなに読んでもらい、何かがおこってではなく、おこる前に、人に苦しみを伝えれば、この話のように、ずっと苦しまずに、すむんじゃないかと思えます。だから

ら私は、一緒にいじめるのではなく助ける方につきたいと思えます。

そして、この思いが、学校中に広まればいいと思いました。そうすれば、みんなが楽しい学校生活ができるようになるんじゃないかと思えます。あとこの話は本当にあったから遊び半分の気持ちで読むのではなく、けいすけや、「ぼく」の気持ちを考えながら読んでほしいと思えます。

最優秀賞

「のぶお君おめでとう」を読んで

玄海東小学校 占部 豊樹

この話の主人公の、のぶお君は、小学校一年生で、今年、入学してきました。しかし、のぶお君のお母さ

んは、つい四か月位前まで、みんなといっしょに入学できるとは、夢にも思っていないでした。なぜならのぶお君は、自閉的傾向を持った子どもだったからです。

入学前、学校になれるために、一年生教室に席をつくらしたり、先生方が遊びにきてくれたりしていました。

入学後は、多くの高学年が遊びにきてくれて、学校に楽しんでいけるようになりました。

ぼくが一番心の残った場面は、二つあります。一つは、入学前の話です。のぶお君が学校になれるために、みんな協力しているところが感動しました。もし、しような害をもった一年生が、玄海東小に入学してきたら、やさしく接してやりたいです。

二つ目は、母の手紙の場面です。のぶお君の母は、もちろん、心配だと思えます。母は、「のぶおをやさしくして、温かく見守ってください

い。」と書いていました。ぼくは正直、しよう害について、真剣に考えた事はありませんでした。この話を読んで、しよう害について、深く知りたいと思いました。

来年、ぼくたちは五年生から六年生になります。つまり、ぼくたちが一年生をお世話する事になります。ぼくが六年生になったら、一年生のお世話もあります。五、四、三、二年生の、リーダーシップをとらなければいけません。なので、みんなをまとめられるようになりたいです。そしてもちろん、同じクラスの人と仲良くしますが、六年生では、先生に進んであいさつしたり、ろうかや校内のマナーを守り、色んな人と仲良くして、今四年生のみなさんと、色んな事をする事が多くなるので、新五年生と仲良く協力していきたいと思います。そして、みんなが楽しい学校にしたいです。

### 最優秀賞

「ともに生きる」を読んで

玄海小学校 田中 彩都貴

私は「ともに生きる」の「親切のつもりでも」を読んで友達のことを考えることが大切だと思いました。わけは、私も友達に同じ体験をさせてしまったと思うからです。前に、目が見えにくい友達が、目のことだからかわれていたので私はその友達を親切のつもりで「しようがないやろ、目が見えにくいから。」といっしまいました。そのときは私は気にしていなかったけど、「親切のつもりでも」を読んで、「あの子も私にあんなこといわれて、いやだっただろうな。」と友達をきずつけてしまったようで、心の中がもやもやしました。そのことを友達にあやまったら、友達は「いいよ。あのと

は私をかばってくれたんだもん。」といってくれました。そのとき私は心がほっとしました。そして心の中「ありがとう。」と思いました。これからは、親切のつもりでも友達を思いやる心をもっていき、友達のためになることをしていきたいです。友達と絆を深めていきたいです。

### 最優秀賞

「野球大会」を学習して

大島小学校 沖西 洸太郎

ぼくは、道德の時間に、野球大会という話を学習しました。この話の主人公は、ひろしという名前の野球の大好きな男の子です。

ひろしが2年生の時のことでした。家に帰ってランドセルを置き、お気に入りのグラブを持ってグラ

ンドへ行く途中で、交通事故にあっ  
てしまいました。ひろしは、ちゃん  
と青信号になって横断歩道をわた  
っていたのに、横から車が飛び出し  
たせいで事故にあったそうです。最  
初、ひろしは意識がなくて、病院で  
目を覚ましたら、うめき声を出した  
そうです。ぼくは、この場面を読ん  
で、ひろしはかわいそうだなあと思  
いました。

それからひろしは、検査やりハビ  
リを続けて、自分でご飯を食べられ  
ようになったそうです。すごくがん  
ばったんだなと感心しました。学校  
にもどってきたひろしは、一人では  
車イスを動かせなかったけど、クラ  
スの友だちが手伝ってくれたので、  
うれしかっただろうなと思いま  
いた。

ひろしが、六年生になった時、野  
球大会の応援に行く予定だったけ  
ど、断る場面がありました。わけは、  
道路に段差があること、車の排気ガ

スが多いこと、じろじろ見る人がい  
ること、会場に車イス用のトイレが  
ないことだったそうです。ひろしは、  
くやしかっただろうなと思いまし  
た。そして世の中には、車イスで生  
活している人には、困ることがたく  
さんあるということを知りました。  
最後に、もしぼくのクラスにひろ  
しのような車イスで生活している  
子がいたら、いつも声をかけたり、  
手伝いをしたりしたいです。

#### 最優秀賞

「不便だけれど、不幸だとは思  
わない」を読んで

地島小学校 加賀田 光海

この話の主人公は、感音難聴にか  
かっています。感音難聴とは、補聴  
器をかけても言葉の区別がつか

いので、声は出せても人の話が分か  
らないというものでした。私は、人  
の話がわからないのに、どうやって  
会話をしているのだろうと思いま  
した。

主人公は、自分の声がわからない  
ので、発音はつきりしなかったり、  
時に興ふんしたり、緊張したりする  
と、声がかん高くなってしまい、ま  
すます相手に伝わりにくくなって  
しまうことが大変そうでした。確か  
に、自分がどんな発音をしているの  
かわからないと、不安になるだろう  
なと思いました。また、手まねや身  
ぶりをしてはだめだと言われている  
ことも、主人公にとってかわいそ  
うなのではないかと思いました。

主人公は、身ぶりなどがだめだと  
言われ続けて、いつのまにか読話す  
るようになっていたそうです。読話  
とは、相手のくちびるの動きや顔の  
表情から話の内容を読み取ってい  
く方法です。でも早口や、ぼそぼそ

と話す人がいたり、同じ口の動きでも意味が全く違う言葉があると、読話が難しくなります。私は、こんなに大変なことを主人公がしているなんて、すごいと思いました。

集会や講演会などでは、手話通訳などはなく、口話だけで進行するので、主人公には内容がさっぱりわからず、まるでなにもない部屋に閉じ込められたような気持ちになり、自分だけが別世界にいるように思えてくるそうです。そこで主人公は、高校三年生のある日、卒業式のことを考えているとき、自分のつらい思いをみんなに伝えようと決心し、学級会に「話されていることがその場でわかるような卒業式、みんなと一緒にいるのだと思えるような卒業式に参加したい。」とうったえたそうです。学級会は真剣に考えてくれ卒業式のときには、手話通訳をつけてくれるようにと、先生たちに頼みに行ってくれたそうです。私は、自

分からそのようにうったえた主人公は、勇気があるなあと思いました。私は今まで、耳が聴こえないと、きつと不便で不幸なものではないかと思っていました。それは、耳が聴こえない分、人一倍努力することで、その分つらいおもいもしているはずで、何か出来ないことがあると、自分の障害のせいにして、不幸な気持ちになるのではないかと思っていたからです。でも主人公の「素晴らしい友達に支えられて生きていくことを思う時、むしろ幸せを感じるのです。」という言葉を読んで、私は耳が聴こえなくても、不幸だとは限らないのだなあと思いました。他にも、色々な障害を持った人たちも、人一倍努力して大変なことを乗りこえていると思うと、すごく応援したくなります。そして、障害を持った人が困っている様子を見かけたら、手を貸せるようになりたいと思います。



平成 27 年度

# 福祉絵画コンクール 受賞作品集

社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

金賞



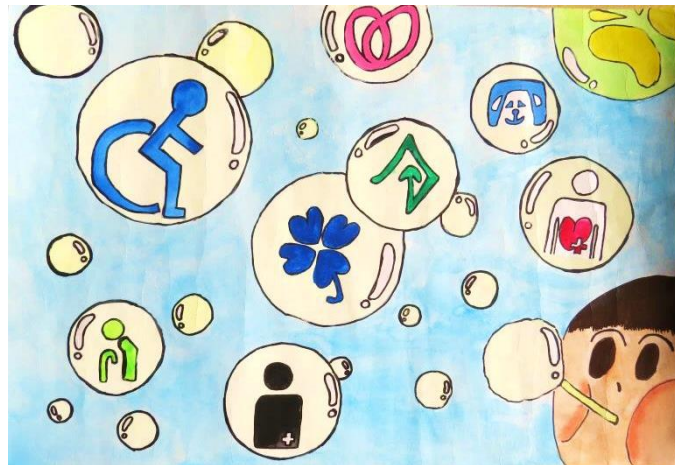
高校生の部 「やさしさ」  
宗像高等学校 古永 誓子

金賞



中学生の部 「思いやりの町」  
河東中学校 松本 愛利香

金賞



小学高学年の部 「みんな知ってる？ このマーク」  
日の里東小学校 井上 和香



金賞



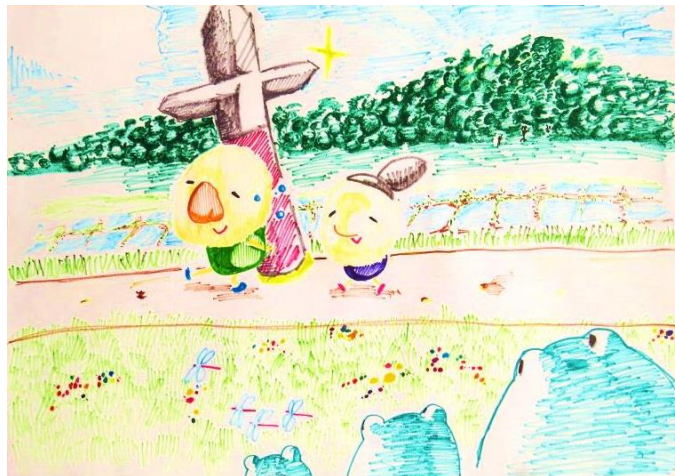
小学低学年の部 「もうだいじょうぶだよ」  
吉武小学校 山下 愛未

金賞



幼児の部 「えがおだいすき」  
平等寺保育園 吉田 政文

銀賞



高校生の部 「おもいやり」  
宗像高等学校 田村 真之

銀賞



中学生の部 「みんなが笑顔でいられる世の中を」  
中央中学校 大城 佳乃子

銀賞



中学生の部 「人と人とのつながり」  
河東中学校 久保 七彩

銀賞



小学高学年の部 「笑顔の広がり」  
日の里東小学校 梶原 かなで



銀賞



小学高学年の部 「思いやり」  
日の里東小学校 岡田 未来

銀賞



小学低学年の部 「みんなでてをつなごう」  
東郷小学校 光安 陽彩

銀賞



小学低学年の部 「ありがとう」  
河東小学校 田中 ひな

銀賞



幼児の部 「うさぎのえさやり」  
野ばら保育園 河野 彩叶

銀賞



幼児の部 「おかあさんのおてつだい」  
～チキン南蛮づくり～  
野ばら保育園 片岡 慎脩

銅賞



高校生の部 「帰り道」  
宗像高等学校 崎山 夏江

銅賞



高校生の部 「心」  
宗像高等学校 古澤 拓也

銅賞



中学生の部 「介護」  
日の里中学校 日高 紘紀

銅賞



中学生の部 「思いやり」  
日の里中学校 安部 彩弥



銅賞



中学生の部 「家族」  
日の里中学校 和田 崇祥

銅賞



小学高学年の部 「人をたすける心」  
日の里東小学校 桑野 真優

銅賞



小学高学年の部 「心の木」  
東郷小学校 船越 心咲

銅賞



小学高学年の部 「地きゅうの皆で心をつたえ合おう」  
日の里東小学校 田中 希実

銅賞



小学低学年の部 「思いやり やさしさ」  
東郷小学校 隅田 杏奈

銅賞



小学低学年の部 「ともだち大すき あそび大すき」  
大島小学校 福崎 心美



銅賞



小学低学年の部 「ひとりじゃないよ」  
東郷小学校 池園 桃花

銅賞



幼児の部 「かわいいおかあさん」  
平等寺保育園 平嶋 紗羅

銅賞



幼児の部 「しょっきあらいのおてつだい」  
野ばら保育園 武田 紗弥

銅賞



幼児の部 「おばあちゃんのもつをもってあげたよ」  
野ばら保育園 毛利 脩宇

**平成 27 年度  
福祉教育読本「ともに生きる」感想文集  
福祉絵画コンクール受賞作品集**

発行年月 / 平成 28 年 2 月

作成・発行者 / 社会福祉法人 宗像市社会福祉協議会

福岡県宗像市久原 180 市民活動交流館メイトム宗像

Tel : 0940-37-1300 Fax : 0940-37-1393

E-mail : [info@syakyo.munakata.com](mailto:info@syakyo.munakata.com)

U R L : <http://syakyo.munakata.com/>